

立川の地ビールに なぜカミカゼの名が

立川市の西国立駅近くの懐石料理「無門庵」(写真左下)。この店の地ビールは「カミカゼビール」と命名されています。「百死零生」といわれた体当たり攻撃「神風特別攻撃隊」の「カミカゼ」です。なぜ命名されたのでしょうか。

これには無門庵の前身「旅館「無門庵」の歴史に戻らなければなりません。旅館は一九三七(昭和12)年に設立され、立川基地に近い無門庵は陸軍将校の旅館として出発しました。やがて無門庵には出

撃前の少年特攻兵が最後の夜を過ごす場所にもなりました。

ふかふかの布団に豪華な食事と別れの水杯。模倣戦闘機を前に、上官が話す「どう敵艦に突っ込むのか」の説明を身じろぎもせず聞き入る15、16歳の幼さを残す少年兵たち。片道だけの燃料を積んだ飛行機にのった少年兵は無門庵上空で三回旋回して飛び去ったといえます。後の懐石料理店



「揺籃之地碑」
(武蔵村山市大南3-29-6)

「無門庵」が開発した地ビールには「カミカゼ」と命名されました。

若き命を失っていった少年兵に思いをはせるとビールを楽しむ気持ちにならない方もあるかもしれません。

少年飛行兵育成の 陸軍少年飛行兵学校

この立川市の近く、武蔵村山市大南に少年特攻兵などを育成した「東京陸軍航空学校」(のちに

「東京陸軍少年飛行兵学校」と改名)がありました。建物跡などはありませんが、その正門近くに建てられた「東航正門跡地碑」と「陸軍少年飛行兵揺籃之地地碑」があるだけです。また立川市から正門跡地へ通ずる通りはいまも「東航通り」(東航＝東京航空学校)の名前が残っています。

一九三三(昭和8)年、下士官養成のための少年兵制度が設けられ、翌一九三四(昭和9)年には

所沢陸軍飛行学校に少年航空兵の一期生が入校。一九三七(昭和12)年には熊谷陸軍飛行学校内に東京陸軍航空学校が仮設されました。翌一九三八(昭和13)年八月に村山村中藤(現在の武蔵村山市大南)に新校舎が完成、九月に学校が移転してきました。

名の少年たちが学びました。戦争末期の特攻隊の主力戦士の多くは二〇歳以下の少年飛行兵でした。

恒久平和願 市が文化財に指定

学校の応募資格は、15歳～17歳までの者で午前中は国語、数学、兵器学などの授業がおこなわれ、午後は軍事教練や体操の授業がありました。

武蔵村山市教育委員会は、市内に軍事施設が存在したことを後世に伝え、世界恒久平和を祈り、その記憶をとどめる二つの石碑建立地を市の文化財に、東京陸軍少年飛行兵学校跡地を旧跡として指定しました。(本文は読売新聞「『特攻隊』伝える料理店」などを参照させて頂きました)

平和を求めて 35 私の町の戦争跡

武蔵村山市 — 東京陸軍少年飛行兵学校跡 多くの少年特攻兵が飛び立っていった



「東航正門跡碑」
(武蔵村山市大南3-112)